

の4 m滝は、左岸を捲いて下る。ここは、ホールドに乏しく、登るのもちょっときつい。

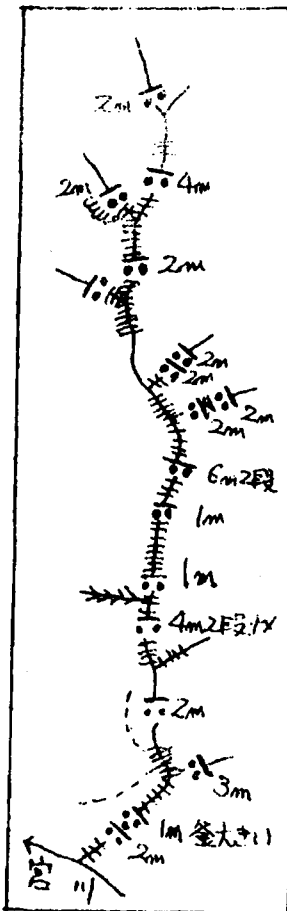
ここまできたら、沢筋が平坦となってきた。そして水道の取水口につく。いよいよこれで終わりかと思っていたら、また滝が出てくる。5 mと6 mの滝が連続。上の5 mは、右岸を捲いて下る。登ることならできそうな滝である。下の6 mは、右岸をクライミングダウンするが、最後の方は岩がモロく、参った。あとは深いV字谷となった沢筋を下って、12:30宮川本流に出る。 (記)

[タイム] 四ノ沢下降開始(11:25)→右俣出合(11:50)→下降終了(12:10)

宮川支流六ノ沢

1988年9月17日

南沢支流ハの沢(仮称)の遡行終了後、尾根を越えて六ノ沢(仮称)の下降に入る。



急斜面を下ると、細い流れが出てきたが、沢の規模は小さい。やがて4 mの滝。左岸をクライミングダウン。ホールドが細かい。このあとしばらくナメがつづく。そして6 m 2段の滝。ナメ状であるが、すべりやすいので、慎重にクライミングダウンする。この沢は、規模こそ小さいが、ナメが豊富で、適当に小滝が出てくる沢のようである。

ナメがいったん途切れると、もう宮川本流も近い。やがて落差は1 m程度だが、大きな釜をもつ滝に出る。左岸をクライミングダウンし、そのままトラバースぎみに釜をへつる。続く2 m滝の右岸をクライミングダウンすると、宮川本流。25分で下降を終えることができた。

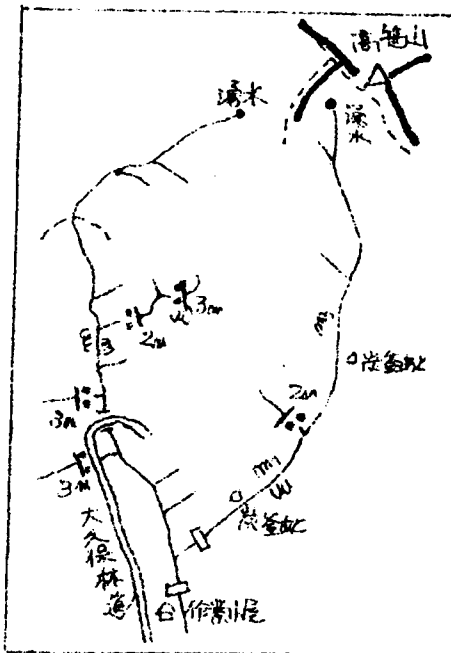
(記)

[タイム] 六ノ沢下降開始(8:20)→終了(8:45)

大久保沢左俣, 右俣

1988年10月9日

八溝山南面の沢は、概して平凡なようである。この大



久保沢も、地図を見ていた限りでは等高線がかなりこんでいると思ったのだが、入ってみたら平凡であった。

6:25大久保沢林道のゲート前に車を置いて沢に入る。ちょうど大久保沢が二俣にわかれる所である。まずは左俣から遡行を開始する。

平凡である。林道に並行してたんたんと流れるのみ。20分ほど遡ったところで林道は沢から離れていく。すぐ沢筋が暗くなって、岩場が出てきた。左岸から合流する支沢には小滝が見える。でも本流はずっと平凡なままである。

7:50源頭の湧水。一つの滝もかからないままで源頭に達してしまった。樹林帯の中をたどって、高笹山のピークをめざす。たいしたブッシュでもないので、楽に登ってゆけた。

8:20高笹山の3等三角点を確認して、大久保沢右俣にむけて下降開始。源頭の急斜面を下ると、すぐ沢筋に出る。細い流れが続いている。この右俣も平凡である。滝はかからない。炭焼き釜跡をみながらぐんぐん下る。1時間の下りで小さな砂防ダム。そしてその先は、左俣との出合であった。下降終了9:20。

(記・)

[タイム] 右俣遡行開始(6:25)→右俣終了(7:50)→高笹山(8:10, 8:20)→左俣下降終了(9:20)

奥久慈湯沢源流

1988年5月29日

L

もう10年以上にわたって子供達と山登りを続けているが、今日は特別記念すべ